

会社の垣根を越えて

有事にはどう動けばいいのか。平時の備えは。海外安全グループ研究会の3人のメンバーに語り合ってもらった。

司会
日外協
海外安全センター
安田 直樹



海外安全グループ研究会

安田 日外協の「海外安全グループ研究会」は東京3グループ、中部と関西各1グループ、合計5グループがそれぞれ3カ月に1度研究会を開いています。そこでは、メンバーが自社の海外安全対策の取り組みについて紹介し合うほか、政情不安や自然災害などへの対応について毎回活発な意見交換が行われています。

本日はグループ研究会メンバー3人の方に、重点的に取り組んでいることや、仕事を進めていく上での困り事などをお伺いします。

初めに、海外安全対策を担当するようになってどのくらいになりますか？

横田 5年前から国内外のリスク管理を安全衛生と共に担当しています。それまではグループ内のシェアード会社で主に保険や健康管理、福利厚生といった人事総務関連の業務を行ってきました。

橋本 私は海外駐在時代を含めずっと人事を担当してきました。海外安全を兼務していた時期もあります。現在の仕事は2020年からで、海外リスクは海外駐在員管理の一環として見えています。

竹鼻 中国駐在時代を含め、もともと販売管理・市場企画に携わっていたのですが、2018年から人事で採用業務を担当するようになりました。現在は海外出張者や出向者、海外拠点から日本に逆出向してくる現地社員のサポートと共に、海外のリスク管理を行っています。

兼務で海外リスクを見る

安田 皆さんは別の仕事との兼務で海外安全対策・危機管理の仕事をしているわけですね。

橋本 現在の仕事に就く直前にコロナ禍が厳しくなり、危機管理の大変さと重要性を実感しました。とはいえ、平時はどうしても駐在員管理の仕事が忙しく、なかなか海外のリスクを見るにも限りがあります。

安田 人事とリスク管理の仕事の割合は？

橋本 コロナ禍の時を別にとすると、通常は業務全体を10とすると人事が9でリスクは1でしょうか。

竹鼻 普段は1か2ぐらいです。ただ、有事になると変わってきます。例えば、イスラエル情勢悪化でイスラエルにある当社現地法人の出向者を緊急退避させた時などは、その対応で精一杯でした。

横田 海外安全対策は仕事全体を10とすると通常は3ぐらいです。私が担当になった直後に香港デモがあり、コロナ禍、ミャンマー情勢、ロシアのウクライナ侵攻など次々と海外で大きな事象が起きてしまい苦労しました。有事になると100%と言っていいくらい、その対応に追われますね。

安田 海外安全対策を主に担っているのは日本本社、現地法人のどちらでしょうか。

横田 通常、国外でのリスク事象の対応は各地域の地域統括会社など現地が中心です。事業に直接関ることとか、駐在員の避難のような